

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価概要表

作成日：平成19年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2870701113		
法人名	医療法人社団 董会		
事業所名	妙法寺すみれホーム		
所在地	(〒 654-0121) 兵庫県神戸市須磨区妙法寺字萬上畑 7 4 2-2		
	電話	078-747-3838	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町 2 丁目 2 番14-703号		
訪問調査日	平成19年6月21日	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】〔平成19年6月21日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月15日		
ユニット数	3ユニット (利用定員…計27人)		
職員数	21人	(常勤13人) (非常勤8人)	/ 常勤換算19.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	20,000円
敷金の有・無	有り (円) ・ (無し)		
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (500,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し
食材料費	朝食	315円	昼食 588円
	夕食	588円	おやつ 84円
	または、1日あたり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年6月21日 現在)

利用者人数	計26名	… (男性6名) (女性20名)
要介護1	12名	要介護2 6名
要介護3	6名	要介護4 2名
要介護5	0名	要支援2 0名
年齢	平均84.3歳	… (最低70歳) (最高98歳)

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団董会 北須磨病院	医療法人社団董会 名谷病院
---------	----------------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループ内に医療機関、医療施設、介護老人保健施設等を持ち、それらのバックアップ体制は、たいへん心強い。1階フロアは、事務室を境に可動式パーティションにより2つのユニットに仕切られているが、行事等の際はこれを収納することで、リビングを広く活用することができ、そこでは、2階ユニットの入居者も含め、入居者全員が一同に集え、皆でイベントを楽しむなど、フロア配置も工夫されている。また、入居者が日常の生活感覚を保てるよう、嗜好品や日用品の買物は、一般家庭のように、一緒にドライブを楽しみながら所々へ出掛けるなど、細やかな配慮がなされている。職員は、第三者評価制度の趣旨を十分に理解しており、現状に慢心することなく、常に課題意識を持ち、さらなる取り組みに努めている。◎添付の資料写真も参照

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目：第三者4) ①庭を整備し、家庭菜園や物干し場に利用することで、土と触れ合う機会が増えた。②契約書や重要事項説明書の表記が分りやすくなった。③廊下の照明を追加することによって安全性が増した。④立替払いの際の定期的な金銭納納報告がなされるようになった。⑤運営推進会議の開催により、地域交流の機会が増えた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目：第三者4) 「自己評価」は職員全員で取り組み、質向上のための課題を共有できている。家族等にも、「第三者評価」の実施日、趣旨、目的、評価結果などを、しっかりと伝達できている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目：第三者4, 5, 6) 「グループホームとは？」から始まり、入居者の生活の実態、支援の方法、行事の案内、介護保険の説明など、地域住民に対して、より具体的に伝えている。会議で提案された取り組みとして、地域住民を対象にした介護教室の開催も実現した。地域の行事情報を得て、入居者もこれに参加している。住民との共同による消防訓練の実施も要望している。今後は、区の職員の会議参加を呼びかけ、行政との連携もより密にし、さらなるサービス向上に役立ててもらいたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目：第三者7,8) 家族等の来訪時に意見や要望、苦情等の確認を行ない、関係者が十分な話し合いを持ったうえで、早期改善にあたっている。家族等の面会時や毎月送付している一筆箋にて、利用者の生活状況を伝え、季刊発行の「すみれ便り」では、イベント時の写真を中心にホーム内での出来事を伝えている。ただ、日常的なケア(生活リハビリ)の様子について、家族等へもう少し詳しく伝えてあげてほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目：第三者3) 夏祭りなどの地域行事、近隣自治会の役員会、近隣小学校の卒業式への参加のほか、トライやるウィークの受け入れなど、近隣との交流は積極的である。ホームの催しには、近隣住民に参加していただくよう声を掛け、また、ホーム前の掲示板にお知らせを貼るなどしている。



▲ 玄関前



▲ 理念の掲示



▲ ホーム内の様子（左は2枚は、入居者による物干し）



◇介護従事者、地域の方々ほか、関係皆様による「評価結果の活用」、「認知症ケアの理解」において、ご参照下さい。◇所定の書面様式に加補するページとして、事業所の確認も得ています。
◇プライバシーの配慮、個人情報保護の観点から、写真中の入居者のお顔、お名前については、失礼ながら適度の処理を施しております。（処理不要のお申出があればこの限りではありません。）

評価機関＝特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所

2. 第 三 者 評 価 結 果 票

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間としての尊厳や権利を損なわず、その人らしい生き方を目的とし、生き生きとした楽しい生活を支援する」を理念に、今までと同じ生活ができるよう、外出や外食、買い物などの日常行為において、本人や家族の意向を取り入れた支援を行なっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、機会があるごとに家族やホーム来訪者に対して理念について説明している。各職員は、見守りを中心に、すぐには先に手を差し延べないようにし、本人の自主的な行動に重点を置いたケアをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りなどの地域行事、近隣自治会の役員会、近隣小学校の卒業式への参加、トライやるウィークの受け入れなどに積極的に取り組んでいる。ホームの催しや行事には、地域住民にも参加していただくよう声をかけ、ホーム前の掲示板にお知らせを貼るなど、地域住民との交流の機会を作っている。	○	学校の生徒が行事案内などを持って来てくれるなど、世代を越えた交流がなされているので、今後も、企画を検討しながら、この取組みを広げていてもらいたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部者の視点を受け入れていく意識が高い。自己評価は職員全員で行ない、各ユニットのリーダー会議でまとめを行ない、質向上のためのポイントを見つけ、その改善に取り組んでいる。第三者評価の趣旨や目的、評価結果を家族等に伝えることができている。		

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	運営推進会議では、地域住民に対してホームの実態 を伝えることができ、会議での提案をきっかけに、地 域住民を対象とした介護教室の開催につながった。 会議により地域の行事情報を得ることもでき、ホーム 利用者の側からもそれら行事に参加できるようにな った。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも 行き来する機会をつくり、市町とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる	生活保護関係の相談や運営推進会議の結果報告に ついて行き来する機会はあるが、その他の機会は作 れていない。市町へは結果報告のみに留まっている。 区の職員に対し運営推進会議への参加協力を 呼びかけている。	○	運営推進会議への参加協力とともに、グループホー ム連絡会の設置等についても、できるだけ行政機関 への呼び掛けをしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、 金銭管理、職員の異動等について、家族等に定 期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の面会時には利用者の生活状況を報告し、 毎月送付している一筆箋でも暮らしぶりを伝えている。 季刊で発行する「すみれ便り」は、イベント時の写 真を中心に、ホーム内での出来事などを伝えている。 金銭管理についてはホームの立替払いを基本とし、 毎月出納帳のコピーを添付して、請求書と一緒に して送付している。	○	日常的なケア(生活リハビリ)の様子を、もう少し詳細 に家族等に伝えて欲しい。普段の毎日の暮らしぶり を知らせてもらうことで、家族等の安心感も増す。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運 営に反映させている	管理者や各職員は、家族等の来訪時に意見や要 望、苦情等の確認を行なっている。苦情や要望につ いては、関係者が十分な話し合いを持ったうえで、早 期改善にあたっている。ホームには意見箱も設置さ れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員に よる支援を受けられるように、異動や離職を必要 最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用 者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が全利用者についてよく理解するために、3カ 月に1回程度の頻度で、職員のフロア間異動を行 なっている。1回のフロア間異動人数は、1～2人に抑 え、異動後もできるだけ異動前のフロアを訪問し、 利用者にストレスを与えないよう工夫している。	○	職員間異動があった際は、家族等にも、便り等を通 じて、報告してほしい。

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内ではOJTを中心に行ない、外部研修は職員の経験や個性に合った研修を順次受講している。新入職員は新人研修マニュアルを用いて研修を行なっているが、入職時に徹底した教育をする意味で、現在、新人研修マニュアルを再整備中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの間で、見学会や研修会を行なうことによって、意見や情報交換などの連携を図っているが、開催頻度はそう多くない。また、区内でのグループホーム連絡会を組織しようと取り組んでいる最中である。	○	区内グループホーム連絡会をできるだけ早期に組織し、他ホーム等との交流においても、定期的に機会を設けてほしい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず本人に見学に来てもらい、本人と話しながらホームの雰囲気を感じてもらっている。入居決定までに、ホームから利用者の自宅を訪れたり、信頼関係を築けるよう努力している。特に入居直後は、家族に、なるべく多く訪問していただく旨、協力を仰ぎ、入居者の不安の軽減に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者それぞれの個別支援を基本とし、日常生活上での「できる事」を見つけ、それらを日課として生活の中に取り入れ、見守りを基本とした支援を行なっている。各職員は利用者からも学んでいく姿勢をもって協働している。		

第 三 者	自 己	項 目	取 組 み の 事 実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取 組 み を 期 待 し た い 内 容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族から生活歴を聴き取り、意向を取り入れ、得意なことは手伝ってもらっている。希望の表出が難しい利用者については、日常会話や仕草から個々の意向を汲み取るようにしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望や意向を把握した上で、日常生活から利用者の個別情報をキャッチし、チームカンファレンスにより情報を共有している。それらの情報を参考に、ケアマネジャー等関係者を交えて、できるだけその人らしい生活ができるよう介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスは概ね3ヵ月に1回行ない、介護計画の見直しは6ヵ月に1回の頻度で行なっている。状態変化のある利用者には1週間程度で見直しをしている。ケアカンファレンスにて、状態変化のない場合も、計画継続の説明は実施しているが、介護計画書の作成日付と署名が漏れている箇所がある。	○	作成日付記入と署名もれを改善し、家族への説明と同意の確認を徹底してもらいたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整い、24時間体制で医師や看護師と連絡が可能である。訪問診療、訪問看護、訪問歯科、訪問薬剤指導、訪問栄養指導等がそれぞれ2週間に1回の頻度で提供されている。利用者の状態に合わせて行事、園芸、趣味等の活動の場を提供している。		

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、入居前のかかりつけ医の受診を支援している。ホームが医療連携体制を取っていることから、本人等から主治医変更の希望があれば、協力医療機関へ変更をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」を基本に、「看取り介護の指針」についても、利用者や家族等に説明したうえで、同意書を交わしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常において、利用者が職員に“気軽にものが言えるよう、人間関係を築くことを強く心掛けています。声かけの方法(呼び方)については、本人の望んでいる呼び方をし、また、トイレを希望された時には、その人だけで通じるサインを決めたり…と、工夫をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、できるだけ自分自身で決断・行動してもらえよう、サポートしている。食事や訪問医療、口腔ケアなど、ほぼ決められた時間帯に実施する事柄以外は、各人で自由に過しており、外出希望があった場合は、できる限り応じるようにしている。		

第 三 者	自 己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付けなどは一人ひとりの能力を見極め、それぞれの役割作りを与え、支援している。何事も、出来ないと決めつけず、まず一緒にやってみることから始めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であるが、実際には曜日・時間帯が自然に決まり、利用者はそれに慣れている。入浴を拒否する利用者には、曜日や時間を決めずに支援している。5月は菖蒲湯、12月はゆず湯…など、季節が感じられる楽しみも支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前後に情報収集した生活歴などを参考に、個別対応の支援を心掛けている。例えば、外出したい人は散歩…、以前に住んでいた家を見たい人は近所までドライブ…外でコーヒーを飲みたい人は近隣の喫茶店へ…と、楽しみの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、洗濯物干しをしたり、家庭菜園で作業をしたりしている。収穫期は頻繁に菜園に出て楽しんでいる。また、散歩・ドライブ・買物などにも行き、定期的に遠足などを企画・実施し、外に出での季節の変化も楽しんでいる。	○	外出が困難な利用者に対しての支援(季節を肌で感じる支援)の方法を工夫してみてはどうか。庭先の範囲であっても、できる限り外気に触れるよう勧めてみてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自室がわからず、他人の居室へ間違えて入ってしまう利用者もいるが、出来るだけ見守りに対応している。ホーム内は自由に行き来できるが、日中は玄関に鍵をかけていることが多い。他施設等を参考に、玄関の全開錠に向け、これを検討中である。	○	構造的には風除室も含めて3枚扉になっているため、対策を講じやすいと思う。例えば、扉を開ければ音が鳴るな工夫を検討するなど、できるだけ早期に玄関開錠を実現してもらいたい。

第 三 者	自 己	項 目	取 組 み の 事 実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取り組みを期待 したい項目)	取 組 み を 期 待 し た い 内 容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練を実施しているが、近隣住民等にはポスティングをする程度に留まっている。消防訓練は、運営推進会議での議題にも挙げ、近隣住民とも協同行ないたい旨を伝えている。地域での訓練に参加することや、地域の方が参加できるような訓練を企画・検討中である。	○	近隣で火災が発生したときの対応方法や、自力歩行が難しい利用者の誘導方法などについて、近隣住民の協力を得るための働きかけを、地道にしていってもらいたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに応じた食べ物を提供できるようにし、その方の口腔状態や嚥下能力に応じて、食事形態を変えている。食事はチェック表を用いて記録しているが、水分摂取量に関しては、必要な方以外は記録していない。	○	大まかにでも、皆について水分チェック量の把握と記録を望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周りにはプランターや花壇を置き、玄関には季節感のある置物や季節の花などを置いている。廊下やごみ捨て場までの照明を追加し、見えやすくした。	○	玄関を開放した場合には、敷地内駐車場から道路までの安全性について、今後も、さらなる留意をお願いしたい。（ホーム前の道路は、妙法寺駅方向に向かう車の抜け道的なところもあり、道路からの視野は広くないので。）
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等の協力を得て、居室には本人の使い慣れた物を持ちこみ、その人にとって居心地の良い空間作りに努めている。（仏壇を持ち込んでいる方や、学習のための机を持ち込んでいる方もいる。）		

※  は、重点項目。